

### 秋の公民館講座

問い合わせ 公民館 ☎35-0700/☎31-4998  
(〒659-0068 業平町8-24)

#### 【芦屋大学公開講座】

東日本大震災と阪神・淡路大震災～復興と支援を考える～  
■日時 11月5日～12月3日(土)午前10時～11時30分<全3回> ■会場 市民センター401室 ■内容 「原子力と放射能を基礎から学ぶ」酒井義之教授・林和夫教授 「復興の経済・企業の再生」政岡勝治教授 「国際的影響を考える」金世准教授ほか ■定員 60人 ■受講料 1,000円 ■申し込み 講座名・住所・氏名・電話番号を記入し、10月25日(火)までに、はがきかファクスで上記へ

#### 【パソコン講座】

ワードで年賀状を作ろう!  
■日時 11月10日～11月24日(木)午前9時30分～11時30分<全3回> ■会場 市民センター203室ほか ■内容 ワードの学習 インターネットやイラストなどの取り込み方 デジカメ写真の使い方をマスターしながら年賀状を作成 ■定員 16人\*文字入力ができ、無線LANの入ったWindows7のノートパソコンを持参できるかたに限りです ■受講料 1,300円 ■申し込み 講座名・住所・氏名・電話番号を記入し、10月28日(金)までに、はがきかファクスで上記へ

### 美術博物館の催し

問い合わせ 美術博物館 ☎38-5432/☎38-5434  
(〒659-0052 伊勢町12-25)

#### 【コレクション展Ⅲ】「具体誕生」・「美術の中の風景散歩」

同時開催「芦屋の遺跡とその出土品」展  
■期間 10月22日～12月11日 月曜日休館 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで) ■会場 第1展示室 第2展示室 ■内容 「具体誕生」吉原治良をリーダーに、1954年に結成された具体美術協会の初期の作品を集めた「美術の中の風景散歩」小出楢重・吉原治良の風景画、ハナヤ勤兵衛の写真など、大正から昭和の関西の風景を特集 ■観覧料 一般300(240)円・大高生200(160)円・中学生以下無料\*( )内は20人以上の団体/市内に居住する高齢者(65歳以上)および身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちのかたとその介護者は半額

#### 芦屋アート・バザール

■日時 10月29日(土)・30日(日) 各日・午前10時～午後4時<雨天中止> ■会場 美術博物館前庭 ■出店 約50ブースワークショップ含む)

#### 【美博倶楽部】おいしい芦屋-美食探求 V01.1-(第3回)

■日時 11月12日(土)午後2時～3時30分 ■会場 講義室 ■内容 本当の贅沢って? 試食あり ■講師 スペイン料理店「ルナバルパドス」代表・鈴木一功氏 ■定員 30人(応募者多数の場合は抽選) ■参加費 1,500円(入館料別) ■申し込み 往復はがき(1枚・2人まで)に、講座名・住所・氏名・連絡先を明記し、10月26日(水)<必着>までに上記へ 来館での申し込みは、10月26日(水)までに表面に申込者の住所・氏名を明記した官製はがきを持参してください。

### 10月後半 CATV 広報番組ガイド

オープニング	業平公園から	
トピックス	秋の特別展示「妖しの世界への誘い」 谷崎・乱歩・横溝	8:30 12:00
特集	第23回あしや秋まつり ご参加ください! 11月6日 住民一斉 津波想定避難訓練	16:00 18:15 22:45
お知らせ	芦屋市民フェスタ 朗読劇 谷崎潤一郎「春琴抄」	※DVD 貸出可
エンディング	記念写真集「芦屋の四季・70選」より	

■広報番組「あしやトライあんぐる」は、11ch(一部地域を除く)でご覧ください。  
■番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ ケーブルネット神戸芦屋(J-COM)カスタマーズセンター☎0120-999-000

### 谷崎潤一郎賞受賞 記念特別講演会

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-0039  
(〒659-0052 伊勢町12-15)

#### 稲葉真弓氏「わたしの文学」



わが国文学界で権威ある賞として知られる中央公論新社主催の第四十七回谷崎潤一郎賞平成二十三年度は、稲葉真弓氏に決定しました。

受賞作品は、「半島へ」(講談社刊)です。谷崎潤一郎記念館がある谷崎ゆかりの本市において今年も受賞者をお招きし、次のおり特別講演会を開催します。奮ってご参加ください。  
■日時 十一月九日(水)午後二時～三時三十分  
\*午後一時三十分分開場します  
■会場 ルナホール  
■定員 先着六百人 要整理券  
■申し込み 往復はがき一枚一人で、往信面に住所・氏名・年齢・電話番号を返信用にあて名あて先を記入し、十月三十一日(月)必着 までに上記特別講演会係へ

#### ●稲葉 真弓(いなば まゆみ)氏 プロフィール

昭和25年、愛知県生まれ。昭和48年「蒼い影の傷みを」で女流新人賞、昭和50年「ホテル・ザンビア」(作品社)で作品賞、平成4年「エンドレス・ワルツ」(河出書房新社)で女流文学賞、平成7年「声の娼婦」(講談社)で平林たい子文学賞受賞。また、短編集「海松」で川端康成文学賞受賞(平成20年)、「芸術選奨文部科学大臣賞」(平成22年)受賞。  
その他、「ミーのいない朝」(河出書房新社)、「猫に満ちる日」(講談社)、「環流」(講談社)、「砂の肖像」(講談社)、「私がそこに還るまで」(新潮社)、「花響」(平凡社)、「さよならのポスト」(平凡社)ほかの著書がある。

### 谷崎潤一郎記念館 その他の催し

問い合わせ 谷崎潤一郎記念館 ☎23-5852/☎38-3244

#### 【文学講座】作家・柳谷郁子が語る ～名作の愉(たの)しみ～

■日時 10月27日(木)午前10時30分～正午 ■会場 講義室 ■内容 椎名麟三作「深夜の酒宴」を取り上げ、作品の背景・作家の心情などを解説 ■定員 16人 ■受講料 2,300円 ■申し込み 上記へ

#### 【特別展開連講座】ミステリー講座Ⅱ「谷崎潤一郎と探偵小説の作家」

■日時 11月6日(日)午後2時～3時30分 ■会場 講義室 ■内容 谷崎潤一郎を敬愛した江戸川乱歩らとの交流を探る ■講師 東京創元社相談役・戸川安宣氏 ■定員 30人 ■受講料 1,000円 ■申し込み 上記へ

### 「新修 芦屋市史 続篇」好評頒布中!

昭和40年から平成16年までの、40年間の芦屋の歩みを取録。ご活用ください。  
■頒布価格 5,000円  
■頒布場所 市役所北館1階行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナー  
問い合わせ 生涯学習課 ☎38-2091

### 平成23年度版「芦屋市ガイドマップ」を差し上げます

全市の市街図のほか、市章の由来、市の木・市の花の紹介、市内の主な施設・窓口案内、歴史や「芦屋 橋ものがたり」などを掲載しています。また本年は、本市の憲法ともいふべき「国際文化住宅都市建設法」が公布されて60周年となるため、ミニ特集として取り上げています。1人に1部を、市役所北館1階行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナーで差し上げています。必要なかたは、お申し出ください。  
※印刷部数に限りがありますので、複数部数が必要なかたは、広報課へご相談ください。

問い合わせ 広報課 ☎38-2006



谷崎潤一郎記念館(伊勢町12-15)

●谷崎潤一郎(一八八六～一九六五)  
大正十二年九月一日谷崎は箱根で関東大震災にあい、関西に伊藤甲子之助宅を訪れていました。あつた芦屋の伊藤甲子之助宅を訪れていました。妻千代と幼い娘つ子を伴い関西に移ってきたのは大正十二年九月末、谷崎三十七歳のときでした。関西に移り住んだ谷崎は、やがて阪神間に定住する意志を固め、芦屋西宮・神戸の岡本などを転々としながら次々と傑作を発表していき、また谷崎は岡本での約七年前に、妻千代と離婚し、佐春夫への細君譲渡事件し、古川丁末子と結婚し別居、また後に夫人となる松子とも出合っています。松子との運命的な出会い、昭和二年、芥川龍之介の関西講演の際、根津清太郎夫人としてした。出会いから七年後、二人は昭和九年に芦屋に新居、富田砕花旧居を構え、翌年、この家で結婚式を挙げています。二十一年間の関西在住のうち、芦屋には昭和九年三月から十一年十一月までの二年八カ月の間です。

たが芦屋に住む友人知人も多く、ここで始まった新たな人生の中から、「源氏物語」の現代語訳が始められ、後の「細雪」(昭和十八年)の世界が開かれていきました。  
この阪神間時代には、痴人の愛(大正十三年)、「乱歩の謎」(昭和三年)、「乱歩物語」(昭和五年)、「吉野葛」(盲目物語) (昭和六年)、「春琴抄」(除喪礼賛) (昭和八年)、「猫と庄造と二人のをんな」(昭和十一年)、「細雪」などの名作を次々と発表しています。



昭和初期の業平橋を走る国道電車

さらに、谷崎が芦屋に住んでいた昭和十一年に発表された「猫と庄造と二人のをんな」には、ごく普通の下町に住む芦屋庶民の生活が、ベニス交えて描かれています。旧国道(国道2号)沿いで荒物屋を営む猫好きの先妻に譲った猫に会ったため、夕暮れの国道をひたすら自転車を走らせるといふシーンが印象的な作品です。また、この旧国道筋は、細雪の舞台にもなっています。昭和十三年の阪神大水害の様子が、迫力ある描写で描かれています。

## 近・現代文学と 芦屋 I

文化の秋一。本市では、谷崎潤一郎賞(小説)や富田砕花賞(詩)受賞者による記念講演会が、それぞれ11月に開催されます。古くから芦屋は、日本最古の和歌集「万葉集」、業平が著したといわれる歌物語「伊勢物語」、中世の芦屋が舞台となった謡曲や軍記物語「太平記」中の「打出合戦」(楠正成と足利尊氏の合戦)など、多くの文学の中に登場してきました。やがて、大正・昭和の初め、別荘地・健康地また住宅地として画期的に拓けていく近代にも、多くの文人たちが芦屋を訪れ、詩や小説の舞台となりました。なかでも谷崎潤一郎と富田砕花は、芦屋とのゆかりが深い文人ではないでしょうか。今回はそんな2人を中心に、大正・昭和に活躍した芦屋にゆかりの深い文人たちをご紹介します。《文責・広報課》



ロックガーデン

●富田砕花(一八九〇～一九八四)  
盛岡市に生まれた砕花(本名、戒治郎)は十二歳で上京、十八歳には与謝野鉄幹、金子新詩社に入り、同郷の石川啄木と歌会に出席。明星や若山牧水の歌謡創作などに短歌を発表。大正元年、第一歌集「悲しき愛」を出版。翌大正二年に病を得、知人を頼って病氣療養のために芦屋へとやってきました。大正九年、田島馬之助と結婚。茶屋の町公光町・宮川町へと居を移しながらも、大正十年から昭和五年に亡くなるまでの七十余年、芦屋に住み続けました。芦屋定年後、大正昭和にかけて多くの著作を残しました。昭和十二年には、第一回兵庫県文化賞を受賞。戦後は、県下をくまなく旅し、歌風土記兵庫県や『兵庫講義』を出版。また宮川・岩園小学校や精道中学校ほか多くの校歌や社歌等を作詞し、広く兵庫の風土と人を愛して、兵庫県文化の父と呼ばれました。現在の旧居は戦災で一部を残し焼失して、戦後再建された建物ですが、谷崎が昭和九年三月から同十一年十一月まで住んだこの面影も一部残し、またその後昭和十三年から五十九年まで砕花が住んだという文学にゆかりの深い家です。砕花氏没後、ご遺族から建物や蔵書一式のご寄贈を受け、昭和六十二年からは富田砕花旧居として一般公開しています。  
●歌風土記兵庫県には、潮見桜やロック・ガーデンを詠んだ歌があります。開森の潮見桜らの名のみならず、海こそ見ゆれ咲くはなもなし。ただひとりとかげ極めむむももありて、物の音聴えし岩場なりし。岩梯子(こも)しき草のみよひうようとう、風に吹かぬ未枯れたるまま花原に仰向けに寝て海近き、山の秋雲動きゆく見つ

「兵庫県文化の父」と呼ばれた詩人 富田 砕花



●富田砕花旧居(宮川町4-12)  
砕花が昭和13年から過ごしたこの家は、戦災で門屋と塀を残し焼失しました。谷崎が住んだころにもあった春日燈籠は、今も庭に残されています。

●富田砕花(1890～1984)の主な著作物  
第1歌集「悲しき愛」(大正元年)、第1詩集「末日頌」(大正4年)カアベントア訳詩集「民主主義の方へ」(大正5年)詩集「地の子」・ホイットマン訳詩集「草の葉」(大正8年)訳詩集「カアベントア詩集」訳詩集「草の葉」(大正9年)「富田砕花詩集」(大正10年)評論集「解放の芸術」詩集「時代の手」(大正11年)詩集「登高行」(大正12年)詩集「手招く者」(昭和元年)歌集「白樺」(昭和9年)訳詩集「草の葉」改訂「昭和24年」歌集「歌風土記兵庫県」(昭和25年)詩集「ひこばえのうた」(昭和45年)「兵庫講義」訳詩集「草の葉」改訂「昭和46年」詩集「視差錯落」(昭和50年)\*没後、歌集「扇目散趣」(昭和60年)「富田砕花全詩集」(昭和63年)が出版されました。



●富田砕花旧居(内部)  
毎週水曜日と日曜日・午前10時～午後4時まで、母屋・庭園・門屋(展示室)を公開しています。

### 芦屋と近・現代文学者

- 星野 天枝 (一八六二～一九五〇)  
作家。慶応三年・江戸生まれ。明治期に文学界を主宰。大正十二年の関東大震災後に娘威の高浜虚子家とともに関西へ逃れ、次に昭和二十五年に没するまで大原町に住んだ。芦屋在住時の著書に、回録「散歩七十年」がある。
- 柳沢 健 (一八八九～一九五三)  
詩人。会津若松生まれ。横濱に勤便局・朝日新聞社・外務省に勤めた。都会風の情熱的な詩人。三木露風らと詩誌「未来」を出す。富田砕花との交流も深く、大正八年から十三年まで公光町に住んだ。
- 早野 台気 (一八九九～一九七五)  
歌人。本名・二郎。浜芦町に十九歳から居住し、戦前から前衛短歌運動にかかわる。戦後は、具休美術の創始者吉原治良らと親交をもち、自らオブリエ短歌と称し、歌集「海へのオブリエ」を遺した。芦屋在住五十七年の間、郷土史家として、また芦屋短歌協会創設にも功労。昭和四十四年、芦屋市民文化賞受賞。
- 阪本 勝 (一八九九～一九七五)  
兵庫県知事時代から朝日ヶ丘町に居住。文人政治家として活躍し、自らも戯曲「洛陽陽ゆや伝記」佐伯祐三などを著した。
- 吉沢 独陽 (一九〇三～一九六八)  
詩人。信州の生まれ。関東大震災後、芦屋に移り住み、西園町に聖樹薬師園を経営。戦前、日本詩壇を創刊。戦後は阪本勝と「聖樹」を刊行した。
- 高浜 年尾 (一九〇〇～一九七五)  
俳人。虚子の長男。昭和十年に鎌倉から芦屋へ、月若町に居住し、虚子が没した昭和二十六年以後は句誌「ホトギス」を主宰した。著書に「俳諧手引」や句集、年尾句集などがある。現在、「ホトギス」を主宰しているのは年尾の次女・福畑汀子氏。福畑氏の住む平田町には、平成十二年に開館した虚子記念文学館が建てられ、汀子氏は同館理事も長も務めている。

### 市制施行70周年 記念写真集 「芦屋の四季・70選」発売中

市では、市民の皆さんからの公募写真でつづった市制施行70周年記念写真集「芦屋の四季・70選」を、次のとおり発売しています。市民の皆さんが切り撮った美しい現在の芦屋風景を、市制施行70周年の記念として、未来の自分への、また遠方のご家族や親しいかたへのプレゼントとしても、ぜひご活用ください。  
■発売所 市役所北館1階行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナー  
■定 価 1,000円

問い合わせ 広報課 ☎38-2006

### 「芦屋シティグラフ」発売中

芦屋の自然や歴史、ゆかりの芸術・文学・文化に触れつつ散歩を楽しめるコースの紹介、行政の動きや統計、また市内の医療機関一覧(地図)など盛りだくさんの情報を、写真170点のほかイラストや地図とともにわかりやすく掲載しています。ご活用ください。 定価・300円  
■発売場所 市役所北館1階行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナー

問い合わせ 広報課 ☎38-2006